

平成28年度 第1回北秋田市総合教育会議 会議録

1. 開催期日 平成28年6月30日(木)
2. 開催場所 北秋田市民ふれあいプラザ 2階 大研修室
3. 開会及び閉会 開会：午後1時00分 閉会：午後2時15分
4. 出席者 北秋田市長 津谷 永光
<北秋田市教育委員会>
委員長 永井 高道
委員 佐藤 正俊
委員 吉田 美樹
委員 小林 真
委員(教育長) 三澤 仁
5. 欠席者 なし
6. 出席事務局員 <教育委員会事務局>
教育次長 長崎 幸雄
総務課長 松橋 久司
学校教育課長 遠藤 元博
生涯学習課長 宮腰 正樹
スポーツ振興課長 水木 正範
総務課総務係長 三澤 忠博(書記)
7. 案 件
 - (1) 平成28年度主な教育施策について
 - (2) 意見交換

8. 会議録

長崎教育次長	<p>ただいまから、平成28年度第1回北秋田市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>初めに、津谷市長より、ごあいさつをお願いいたします。</p>
津谷市長	<p>開催にあたりまして一言ごあいさつ申し上げます。先ず持って当初提出しました6月2日の開催、急きょ延期させていただきまして、皆様には大変ご迷惑をおかけしました。この場をお借りしまして心からお詫びを申し上げたいと思います。また今日は、お忙しい中にも関わらずお集まりいただきましてありがとうございます。さて、この総合教育会議であります、昨年度から始まりました新教育委員会制度の下、教育委員の皆様と市長が直接意見を交わして重要な教育施策の決定を行うという、大変意義のある会議と考えておりますので、皆様には様々な角度からのご助言やご指導をいただきたいと思っております。</p> <p>昨年度、会議2回を行っていますけれど、そこで提案されましたご意見の中からさっそく今年度の施策に取り入れたものがございまして、ALT経験者のショーン・コーリガン先生を県内で初めてJETプログラムコーディネーターとして採用させていただきましたことによりまして、学校での語学教育やALTの指導はもとより、市の国際化にも大いに貢献していただくことを期待しております。実際、伊勢堂岱遺跡の英語表記なども彼に実行していただいたということもございました。これからの彼の活躍に期待しているところであります。</p> <p>本日の会議では、今年度の主な教育施策について事務局から説明がございすけども、様々なご意見を出していただきながら活発な議論の場としていただきますようお願い申し上げます。簡単でありますけれども開会にあたりまして私からのごあいさつとさせていただきます。本日はよろしくをお願いいたします。</p>
長崎次長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>続きまして、永井委員長より、ごあいさつをお願いいたします。</p>

永井委員長	<p>今、津谷市長からお話がありましたけれども、前進している部分とこれから積極的に取り組まなければならない課題がある意味山積している北秋田市の教育行政ではないかと感じております。進んでいるというのは、縄文館の開設やこの会場であるコムコムの非常に充実した利活用の状況等ですけれども、反面緊急に対策を打たなければならない校舎の問題とか、学校の整備計画をどういう風にしていくのか、これらについても今日は当然話題になるだろうと思いますのでよろしく願いいたします。</p>
長崎次長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>続きまして、早速案件に入らせていただきます。「北秋田市総合教育会議運営要綱」により、議長は市長が行うことになっておりますので、津谷市長に案件の進行をお願いしたいと思っております。</p> <p>それでは、津谷市長よろしく願いいたします。</p>
津谷市長	<p>それでは、要綱に基づいて暫時議長役を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>早速、案件1の平成28年度の主な教育施策について、事務局から説明をいたしますけれども、初めに教育長から全体を通しての説明をお願いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
三澤教育長	<p>北秋田市の平成28年度の教育については冊子にまとめておりますので詳細は述べませんが、28年度の北秋田市の学校教育の事情について、大まかな点についてお話させていただきます。</p> <p>資料をご覧ください。1番目の学校の児童・生徒数4月1日現在であります。小学校は10校、児童数は1,234人、中学校は5校、生徒数は654人、合わせて1,888人。これは調べてみましたら昭和30年の合川町時代の小学校全児童数がちょうど1,888人でした。現在それとちょうど同じ数です。</p> <p>いったい北秋田市にどのくらい子ども達がいたかというと、昭和34年は小学校一番多い年で、小学校数は27校ありました。児童数は11,147人。中学校生徒数が一番多かったのは、昭和37年で11校5,678人でした。合わせて16,825人、だいたい当時と比べて10分の1くらいというのが現在の子ども達の数であります。本当にびっくりする位少なくなりました。これからも減少が予想されるわけですが、これについては後ほど学校再編にも関</p>

わってきますので、その時に改めて話題にしたいと思います。

2番目は北秋田市内の教員数です。管理職を除いた先生の数ですが、小学校は90名で平均年齢48.2歳、中学校は61人で平均年齢46歳。50歳代に近いということになっております。

3番目はその年齢構成ですが、小学校が一番多いのは50歳代で46.7%の割合になっております。20歳代はわずか3名だけです。中学校も50歳代が一番多くて、41%を占めています。20歳代はおりません。理想的には各年代のバランスが取れていると良いのですが、年代別のバランスがいびつになっているということです。何れこの50歳代の先生方が退職すると、急速に20歳代の若い先生方が入ってくることとなります。

秋田県の子ども達のいろんな調査の結果が優れているというのは、このようなベテランの先生方の指導力に支えられている部分が多いと思います。この先生方が退職して若い先生方が入ってきた時に、また子ども達の基礎的な学力がどうなるのか、今のうちに若い世代に継承していかないと大変なことになると思っています。

北秋田市の教員の出身地ですが、小学校は大館北秋が46.7%で、能代山本も46.7%で同じです。小学校は能代山本・それ以外からの入って来ている先生が多いこととなります。中学校は大館北秋で77%を占めるので、地元の先生方が多いこととなります。

不登校児童生徒ですが、5月1日現在小学生は2名、中学生は9名おります。これは月が増えていくに従って、一人二人と増えていくのがこれまででした。これに対する学校の対応も、教育委員会の学校への支援も大変大事になってきますので、リフレッシュ学園やさわやか教室等大いに活用しながら、学校復帰へと働きかけていかなければなりません。

6番目は、給食における食物アレルギーが非常に問題になっていますが、北秋田市内にはアレルギー反応のある子ども達が、小学生34名、中学生6名、合わせて40名。重篤なアレルギーのためにエピペンを持っている子どもが小学校で2名おります。

7番目は、特別支援教育、各学級に生活支援を含めながら身の回りのサポートをしなければならない子ども達が含まれていますが、その対象の児童生徒が、小学校に75人、中学校に25人おります。北秋田市ではそういった児童生徒に対応するために、生活サポート員を小学校に22名、中学校に6名、計28名を配置して日々の学校生活の支援をしております。

8番目は、特別支援学級、個別的な指導を要する児童生徒が、小学校

津谷市長	<p>には26人、中学校には12人おります。</p> <p>9番目は北秋田市の学力と学習の状況、これは別紙資料をご覧ください。これは記者の方々にはマル秘資料ですので差し上げておりませんのでご容赦願います。</p> <p><資料説明></p> <p>私からは以上であります。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>今教育長からの説明をいただきましたが、学校教育関係についてそれぞれ説明していただきます。先ず総務課長からお願いします。</p>
松橋総務課長	<p>それでは学校教育関係について、総務課所管分について説明いたします。</p> <p>総務課では今年度3つを挙げさせていただきました。1つ目は校舎の修繕事業、2つ目は鷹巣地区の学校給食センター統合事業、3つ目は今年度から市単独で行っておりますあきたリフレッシュ学園と県教委の委託事業の教育留学事業であります。</p> <p>初めに校舎の修繕事業ですが、今年度比較的高額な工事費を要する修繕はこの6校を計画しております。小学校3校分で2,900万円、中学校3校分で1,800万円、合わせて4,700万円の修繕を予定しています。そろそろ発注に係る入札が行われる予定であります。</p> <p>2つ目として、鷹巣地区の学校給食センターの統合であります。鷹巣小学校に併設しております中部学校給食センターを7月いっぱい閉鎖しまして、北部学校給食センターと統合いたします。先般閉会しました6月定例議会において、こちらの厨房機器の交換に係る請負契約2,754万円を議決していただきました。早速準備の方に取りかかっておりまして、8月26日の2学期からは北部学校給食センターで中部学校給食センター分も提供する予定になっております。</p> <p>あとリフレッシュ学園と教育留学事業であります。教育留学に関しては新聞等で報道になっておりますのでご覧になっているかと思いますが、教育留学の方へは現在宮城県石巻市から中学2年生の女子生徒が1名留学しております。明日で最後の日を迎えることになっております。また、インターナショナルスクールから今週1名、1週間ほどの日程でこちらに来ております。</p> <p>この教育留学事業ですが、体験留学というのを8月25日から30日まで行う予定になっております。いわゆる短期の教育留学であります。</p>

<p>津谷市長</p>	<p>が、今現在で21名の申込みがあります。主に関東圏の生徒を中心に申し込み者が多くなっております。この石巻市から来ている中学2年生の女子ですが、6月23日と明日に放送局の取材を受けまして、明日以降になるとと思いますが、留学の状況とか生活の状況が放送されると思います。まだ放送日までは伺っていませんが、明日の取材が終わった時点でいつ放送になるか教えてくれるのではないかと思います。</p> <p>リフレッシュ学園であります。4月当初4名の入園生でスタートしましたが、その後だんだん増えてきておまして、6月27日現在で学園を利用している児童生徒数は11名で、そのうち体験的に1日、2日来た児童生徒が4名です。11名の内訳は中学生が8名、小学生が3名であります。</p> <p>以上、総務課所管分の説明を終わります。</p> <p>続いて、学校教育課長からお願いします。</p>
<p>遠藤学校教育課長</p>	<p>学校教育課重点事項について説明いたします。</p> <p>一つ目は、外国青年招致事業です。ALTが新たに8月からの2名も決まりまして、7名体制で指導を行うことができることとなります。それに伴いコーディネーターとしてのショーン・コーリガンを配置していただきましたが、すでにALTの相談にのったり、アドバイスをし、毎週のように指導主事の佐藤推進監が英語専門なので中学校に同行してALTに指導したり、先生方に指導助言したりとフルに活躍しています。この後、国際交流関連事業とか、ALTの活用も含めた市の様々な主催事業あるいは共催事業について、もっといろんなところに参加して市民と触れ合ったり、事業に協力するということを積極的に各課にお願いしていこうと決めました。今準備していることが市のホームページです。英語版、日本語版を定期的にシリーズで載せていこうということで、英語版で広報に載せるのは難しいのですが、日本語版でショーンのコーナーを作って、外国人からみた市の良さをPRし、総合政策課とか商工観光課とも相談しながら進めています。</p> <p>次に小中学校適正規模再編プランは10年計画なのですが、おそらく今後学校建築も絡んできますので、15年計画でやっていかないと計画がうまくできないと思いますので、おそらく15年計画になると思います。</p> <p>別添の資料をご覧ください。再編しない場合の2040年の児童生徒数の推移と複式学級の状況ですが、人口問題研究所の人口推測0歳から</p>

津谷市長	<p>14歳が現在の半以下にまで子どもの数が減少するというのが統計的に出ております。単純に48%計算ということになります。2040年になると、このままの10校体制で行くと6校に複式学級ができます。大体50人台になると複式学級の学年が出てくるということが現在もありますので、非常に危機的な状況であるということです。更に、阿仁中学校においては複式学級の可能性があります。先ほど教育長が一番多い児童生徒数があったときの今は10分の1くらいと言われましたが、あくまで平均であって、少ない地区は20分の1という地区もあります。現在、3ページ目の年間スケジュールに従って進めています。補正予算の関係で1回目の検討委員会は7月の下旬を予定しています。児童生徒の教育環境の整備ということを第一に考えながら、当然今まで学校と地域が互いに築き上げてきた信頼関係とか、活性化とか考えれば、様々なつらい部分もあるわけですが、そこは地域全体・市民全体で子どもの将来を考えて行かなければいけないという視点に立って考えてほしいなということを検討委員会、最終的には市民への説明ということで理解していただければと思っております。</p> <p>3つ目の校務支援システムの整備であります。今北秋田市の子ども達は非常にいい状況にあります。これを更に継続・向上させるためにも、一層子どもに先生が関わる時間を確保していきたい。ということから様々な先生方のやらなければいけない事務仕事を効率化するという事です。かつてはパソコンに触れば触るほど子どもに接する時間が無くなるという状況でしたが、今のシステムはそうではありません。それほど進化しています。例えば、出席簿に欠席というマークを付けて風邪と一つ入力すると、自動的に指導要録、通知表、保健管理のデータにも全て反映される。つまり全てがリンクし繋がっているということです。今まではそれぞれ入力しなければいけなかった。実際に導入した県のデータによりますと、1年間で先生方の事務仕事に費やす時間が年間100時間くらい減った。裏を返せば100時間子どもに接する時間が増えるということになりますので、今視察をやったり、先生方に各メーカーのデモをやって評価してもらったりと準備しています。何れお金もかかることではありますが、それをかけたとしてもそれ以上の効果は十分あると見込んで準備を進めているところであります。</p> <p>以上です。</p> <p>今学校教育の関係で総務課長と学校教育課長から説明がありましたので、これにつきまして委員の方々からご意見ご質問をいただきたいと</p>
------	--

小林委員	<p>思います。</p>
遠藤学校教育課長	<p>校務支援のシステムはタブレットとかになりますか。</p>
遠藤学校教育課長	<p>タブレットでも基本的には同じです。インストールすることよりもクラウドで全部つないで、データもそこで管理するので安全性は非常に高いと思っています。</p>
松橋総務課長	<p>この間日本一安全だと言われていた教育管理システムがハッカーに遭いましたので、国の方でも大至急対策を練っているところですので、おそらく業者の方からもそれなりの連絡が市の方にも来るのではないかと考えております。</p>
三澤教育長	<p>現在学校の先生方の気持ちとしては毎日毎日が多忙化、多忙感に苛まれていると、どこでも話に出てくる訳ですが、こういうことで年間100時間軽減に繋がるということで、多忙感が少なくなってくる。ただ前にある県で万引きした記録がそうでない子どもに残っていたがために、ずっとそれが引き継がれていて自殺に繋がったということもありましたので、これは慎重に正確なデータを打ち込まないといけないし、そういう点ではデリケートに伝えていただきたいなと思います。</p>
津谷市長	<p>他にありますか。</p>
佐藤委員	<p>滞在型教育留学の件ですが、6月からスタートしましたが、子どもの感想はとっても良いと。学校環境が変わったのか、或いは生徒間同士の授業のやりとりが変わったのかは分からないが、もう楽しくてしょうがないと。もうすぐ宮城県から来ている子どもは帰る訳だけでも、もう一人神奈川県のアメリカンスクールから来ている子どもは長い間家族でアメリカの方に何年かいて、日本語がよく理解出来ないという状況の中で教育留学に来ている。アメリカンスクールはもう夏休みに入っているようで、出席欠席については一切関係無いようで、秋田県の教育に関心があって、授業を受けてみたいと子どもはそういう気持ちのようですが、親はもっと別の面で田舎の農山村の環境に触れさせながらいろんなものを学ばせたいという気持ちと、その子どもは少し内向的な性格で、今の学校では友達とのふれあいが無いのだそうです。そのことが心配でたくさんの友達を作ってほしいという親の願いからだそうです。今</p>

<p>松橋総務課長</p>	<p>その子は2年生の授業受けているわけですが中々授業についていけない状況にはあるみたいです。でも今のところは楽しくやっています。ショーン先生も付いてくれて、いろんな面で支援してくれるので、その点では安心かなと感じています。ただ、親の願いというか目標が高くて、宮城県から来た女子はできれば学力を上げてほしいという気持ちのようです。それはとても無理だなと思うのですが、ただ学校がとても良かったよと帰った時に親に伝えられるような学校の体制というか、迎える方ではとても大事なことだろうと思います。そういうことを勉強して帰ってもらえればいいのですが、親が遠くの方に行ったらちゃんと勉強して高い成績を取ってこようという目標があるらしくて、それに到達しなければあなたの携帯だかタブレットだかを取ってしまうよと、そのようなことも子どもから聞こえたりして、そうではなくて親の気持ちが子どもに別の面から勉強して来なさいよということを書いてもらえれば、子どもとしてはいろいろと経験をして成長していくのではないかと思います。本人は最近テストが終わったばかりでがっかりして帰って来て、ただいまという声も聞こえないくらい低く、目標まではいかなかったみたいです。でもあと数日で帰る訳ですが、この滞在型教育留学は担当している先生が大変容易でない状況にあるなと思います。それも教育委員会の協力もあってようやく今やっている状況です。なかなか仕事が追いついていかないというか、新聞記者は来るし、テレビ局は来るしでなかなか落ち着いていけないわけですが、もう少し経つと落ち着いた教育留学の環境が出来ていくと思いますが、今後の課題としては、今現在は男子と女子の2名が普通の住宅にその子ども達と宿直の方がいるわけですが、区切りが襖だけだし、できればもう少し広い場が必要ではないかなと思います。これから増えていく可能性もあるので、その方向も検討する必要があるのではないかと感じています。</p> <p>今現在来ている中学2年生の女子ですが、ちょうどアメリカンスクールの子とわずかしこ重なりませんので生活には支障が出ておりませんが、今佐藤委員が言われたように人数が増えて男女が混じった場合にどうするのかと、我々も懸念しているところであります。この教育留学は県教委で行った事業であります。市教委としては子どもが留学で北秋田市に来ると、それプラス親の方の移住定住に結びつけられないかということで総合政策課と協議しているところであります。うまくいけば子どもがこちらに来ている間、お母さんでも一緒に来て、こちらの住宅を借りて、中学校を卒業するまでは一緒にこちらで暮らしませんかと。実</p>
---------------	---

	<p>際関東の方から仕事と住居があれば一緒に来たいと言っている家庭もあるそうですので、総合政策課と政策的に事業をどうするか詰めている最中であります。それに併せて男女と一緒に生活をするという住居の問題も解決できればいいなと考えているところであります。</p>
小林委員	<p>前に合川町で山村留学をやっていましたよね。あれと同じスタイルということですか。</p>
松橋総務課長	<p>あれとは違います。山村留学は月の半分はいわゆる山村留学センターで暮らして、残りの半分は農家で民泊して暮らす。今回は全くこちらの施設の方で生活をして、たまに民泊を取り入れる形です。</p>
三澤教育長	<p>今後の予定として7月、8月に小学校4年生が一人ずつ、9月に入って仙台から小学校5年生が1ヶ月近く決まっています。小学校は合川小学校になります。</p>
小林委員	<p>このように送り込む親の方の目的というのは、例えば今秋田県は教育県として注目されていますので、秋田県に子どもを送れば頭が良くなって帰って来ると言うのが目的ですか。</p>
佐藤委員	<p>今のところは、最初に来た子どもの親がそうふうに子どもにプレッシャーを与えているみたいですが、そこら辺を考えないと子どもは苦しいなと思います。</p>
津谷市長	<p>受け入れる側の市としても、市教委・教員としても、その親に対してこういうことですよとしっかり説明しておかないと、佐藤委員が言われたような子どもにすごいプレッシャーを、ただ預ければもう学力が上がるという、親も一緒に教育できるような形、さっき移住定住の話があったけれども、市長としてはせっかく子どもが来てくれるのであれば、移住定住を通じてでもいいし、こっちに住んでもらえればこれにこしたことはないし、市のPRにもなるなと思うのだが、ただ目的そのものがぼやけてしまっていて、親そのもの一人一人目的が違って、片方は自然に親しんで自由に子どもが伸びて内向的な性格が直してもらいたいという親もいるし、逆にまた授業の点数を上げて帰ればいい学校に入れるような、というような型になると受け入れる方で大変だと思う。その辺はある程度きちんと線引きしないといけないと思います。</p>

三澤教育長	<p>事前に親子一緒に面接しますので、事業の趣旨を説明して、親にお願いしたいことを話して、理解してもらっています。</p>
津谷市長	<p>他によろしいでしょうか。それでは、委員の皆さんからもいろいろご意見出ましたので、それを十分踏まえながらこの事業を進めて、いろんな方面にも展開していきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、生涯学習課長お願いいたします。</p>
宮腰生涯学習課長	<p>それでは生涯学習課の事業についてご説明いたします。</p> <p>最初に、北秋田市民ふれあいプラザについてです。オープン記念式典及びオープニングイベントが4月30日と5月1日に開催され、たくさんの方々の市民の方々のご来場により、終日賑わいました。1日目は約5,500人、2日目は4,900人の来館がありました。この2日を除いた先日6月26日までの来館者数は37,187人ということで、1日平均来客数は664人です。このプラザですが、太陽光発電、地下水を熱源とした融雪利用、地中熱、ペレット燃料を施設の冷暖房に利用するなど自然エネルギーを利用した施設となっております。データを取しながら、この維持についても効率よく運用していきたいと思っています。</p> <p>建設にあたっては、利活用検討委員会、ワークショップ、企画運営会議など重ねて参りました。これからも市が提供したいサービスばかりでなく、利用する方がどういうものを求めているか、愛着を持って利用してもらうためには何が必要かという観点から、企画運営の実践委員会なるものを立ち上げましてご意見を頂きながら賑わいに結びつくことを実践して行きたいと考えております。また、この市民ふれあいプラザは、中心市街地の賑わいづくりの拠点と位置づけられておりますので、商工観光課と打ち合わせしてチャレンジショップ支援事業など連携して事業を推進していきたいと考えております。</p> <p>2番目の生涯学習事業についてです。今年も身近な問題や市政情報など、市民の皆様が聞いてみたいテーマに沿って市職員が出向いて説明等を行う出前講座を予定しております。今年は24講座を予定していますので、様々な機会に利用してもらえようと呼びかけていきたいと思っています。</p> <p>続いて、3番目の鷹巣小放課後児童クラブの建設についてです。鷹巣小学校と鷹巣西小学校の統合に伴い、両校児童クラブ利用者が増えまし</p>

た。これまで鷹巣小放課後児童クラブとして使用していた鷹巣児童館が手狭となったということで、鷹巣中部学校給食センター解体後の跡地に鷹巣小放課後児童クラブを建設するもので、来年の4月のオープンを目指しております。

続いて、伊勢堂岱縄文館と伊勢堂岱遺跡についてです。遺跡に理解を深めてもらうと共に、情報を発信し、誘客と世界遺産登録を目指し、去る4月24日に伊勢堂岱縄文館がオープンしました。本年度の伊勢堂岱見学環境整備事業として、環状列石のCとDの保存処理委託を行います。現在4千年前の地面がむき出しになっております。この表面を保護するために樹脂を混ぜた土で表を覆うことにしております。また、橋梁上部工事として今年的一般開放の10月末日までの来館者の現場見学に支障がないように準備しているところであります。誘客構想といたしまして、縄文館で上映している資料映像の5分ものを現在ユーチューブで上映しております。また、来館者には写真や映像を自由に撮ってもらい、お客さん自身がインターネットに投稿したり、フェイスブックに掲載することにより、PRになるということで来館者にはどんどん写真を撮っていただいております。また、観光コースに組み入れてもらっている他、今後は内陸線小ヶ田駅が近くにあることで、内陸線との連携、二次アクセスや乗り合いタクシーの組み入れなど、商工観光課、内陸線再生支援室との連携を深めてPRを進めて参ります。

続いて、平成30年の世界文化遺産登録の推薦候補になることを目指し、伊勢堂岱遺跡、鹿角市大湯環状列石を含む北海道北東北縄文遺跡群の世界遺産登録本部は、今年の3月31日に推薦書素案を文化庁に提出しております。この北海道北東北縄文遺跡群というのは、国の史跡としては16箇所ではあるが、世界遺産の構成資産としては入江・高砂貝塚がそれぞれカウントされるため17箇所になります。

続いて、伊勢堂岱遺跡ジュニアボランティアガイドの養成についてです。昨年度は27人でしたが、今年は24人で、現在8月6日からのガイド実施に向けて準備をしているところです。

続いて、第41回全国遺跡環境整備会議についてです。来る10月13日～14日、当市を主会場に遺産整備に携わる自治体担当者が一堂に会し、整備に係る技術や方法について検討・協議し、各自で進められている遺跡環境整備に役立て、遺跡の保存と活用に資することを目的に、この会議が行われます。現在秋田県教育委員会、秋田市と詳細について打ち合わせをしているところです。

続いて、浜辺の歌音楽館屋根改修工事についてです。雨漏りをしてい

	<p>るといふことで、今ある屋根の上に更に屋根で覆うというカバー工法で施工することにしております。</p> <p>最後に、鷹巣図書館開館時間延長施行の取りまとめと今後の方針についてです。市民からの図書館開館時間延長の要望を受けまして、試行的に平成26年6月から閉館時間を17時から19時まで2時間延長しております。その間の来客者の状況ですが、27年度の実績は1日平均26.5人の方がみえられています。これを1時間ごとにカウントするとどうなるかという、17時～18時は22.8人、18時～19時は3.8人ということであります。今年は市民ふれあいプラザオープンによる図書館利用者の増減をみて、閉館時間を延長するかどうか、延長するとすれば何時が適切かということを決定的にしていきたいと考えております。生涯学習課は以上です。</p>
津谷市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ただ今の説明について、ご意見・ご質問をお受けしたいと思っております。何かありますか。</p>
永井委員長	<p>非常に縄文館の評価は高いのですが、やはり来場者の不満は遺跡の見学ができないことに尽きると言われていますが、今後の見通しはどういう状況になっていますか。</p>
宮腰生涯学習課長	<p>現在の予定では7月15日まで全面閉鎖です。この対策は単に被害に遭わないことの対策ですが、部分開放する対策として考えているのは、雀を追う田んぼに置く装置の設置を検討しています。これについては地元の方々と相談しながら設置してまいります。部分開放から安全を確認でき次第、開放を拡大していきたいと考えています。</p>
三澤教育長	<p>これまでワーキンググループの方々もずっと出来た時から関わってきたけど、熊騒動というのは1件もなかった。いよいよ整備が終わって縄文館が建ったら、熊が出てきたと。地元の方々は下刈りしたり、花を植えてくれたり、関心を持ってきれいにしてくれて、たくさんの方に来てもらいたいという思いが強いので、たぶん暖かい気持ちで受け入れてくれると思います。</p>
宮腰生涯学習課長	<p>装置なのですが、時間設定で夜は鳴らないようにして、日中は鳴るように出来るので、これは有効かなと思っています。</p>

津谷市長	<p>熊が慣れてしまわないか、大丈夫だろうか。</p> <p>せっかく縄文館があって、ジュニアボランティアも頑張っているのに水を差されてしまって非常に残念でしたが、熊を排除していただきたいと思います。</p>
佐藤委員	<p>今後、たくさんの方々が2度3度と足を運んでもらうための対策が必要ではないか。私3回行きましたが、いろいろと話を聞いても飽きないでいますが、あのままだと「あといい」と言う人もいるだろうな。新しい何かが必要かな。展示されている展示物があのまま変わらないと飽きられますよね。合川東小学校にたくさん物がありますよね。あれが常に新しい物が入って、展示した物がまた東小学校へ回れるように工夫が必要かなと思います。常時展示している物も必要かなと思うが、何か変わった物が常に入ってきているように工夫しないと、もしかすれば1回見れば来なくなるのではないかな。環境も良く整備されていました。花も植えられていたし、草もきれいに刈られていたし、ただ館内の窓から湯車川の芝生を見たのですが、芝生が崩れて土が流れているところがあって、人目に付くので良くない。ああいう所はすぐ直せるのでないかな。できたら早く直した方が良いのではと思いました。道路が移動して、その橋のコンクリートが剥き出しになったままで、そこに数千年前の縄文人の絵が描かれていたり、鮭が遡上している川の絵が書いていたりした方があのままよりは良いのではないかなと思います。何か考えがあるのですか。</p>
宮腰生涯学習課長	<p>音楽祭をやったりして、そのバックに活用しているのですが、絵を描いたり出来るかどうかは、県に相談してみます。</p>
津谷市長	<p>佐藤委員から絵を描いたりしたらどうかと話がありましたが、いろんな考え方があって、私の場合はあれをあのままにして残しておいて、逆に遺産を残すためのモニュメントとして残すべきだと思います。この前に縄文音楽祭をやった時に天候が悪かったのだが、あの前でステージみたいになっているので、あれをバックにしてやれるのは良いのではないかなと感じました。意見が分かれるところだと思いますが、その辺も考えた方が良くないかなと思います。</p>
永井委員長	<p>専門家に聞いた方が良いです。今手を加えるとイコモスからダメージ</p>

	<p>が出てくるので、何でも聞いて対応するべきだと思います。我々の意向だけでは対応出来ないというのが世界遺産登録の状況のようなので。それから展示物については、しょっちゅう変えるということを担当の方でも考えているようなので、是非それを実施するというの他に、北秋田市の全体の地図をきちんと表示して、何遺跡の主な所はここですよという表示がないと、あの展示だけだとみんな伊勢堂岱の周辺で出土したものだと錯覚するので、そこは担当に言わなければならないなと思っていました。スタートしましたけれども、次々と改善、改良していかなければならないのだらうと思いますので、いろんな人達の意見を積極的に伺った方が良いのではないかと思います。</p>
佐藤委員	<p>湯車川なのですが、近い将来もっと汚くなるような気がします。今日地図でずっと支流というか、始まりの部分を見ていたのだが、大野台の方で途中切れていて、沼かどこかから来ている水ではないかとおもうのですが、鮭が遡上するには少々汚いというか、整備が必要かなと思います。あそこら辺に歩道も整備されたし、人が通ってもきれいな川だなと思えるような川の整備も必要でないかと感じました。</p>
津谷市長	<p>ありがとうございました。生涯学習課の方はよろしいでしょうか。それでは今いろんな貴重なご意見をいただきましたので、それを踏まえながら、検討をしっかりとやっていただきたいと思います。それではスポーツ振興課お願いします。</p>
水木スポーツ振興課長	<p>主な教育施策ということで5点ほど挙げさせていただいております。まず1点目ですが、阿仁合のテニスコートの維持管理ということで、全天候型ハードコートであります。コンクリートの打ち直し等全面的な改修が必要な状態です。資料の方に現状の写真がありますのでご覧になっていただきたいと思います。修理後の使用頻度の上昇についても期待できないということから、我々としては廃止の方向で進めたいと考えています。この件に関していろいろと調査しております。阿仁のテニス同好会は現在活動をしていないようです。北秋田市のテニス同好会に所属を変えているということでありまして、こちらの方に確認したところ、阿仁のテニスコートは使用する予定は無いということです。コンクリートということで足腰への負担が大きいので非常に使いにくいと、使っているとすぐ疲れるということも使わなくなった要因に挙げられるのではないかと思います。今後は阿仁地区への自治会への打診等を</p>

行って、廃止の方向へ進めたいと考えております。廃止した場合テニスコートが無くなるわけですので、阿仁の体育館は壁にコンクリートが入っていますので、直接壁に当たっても大丈夫なような構造になっていますので、阿仁体育館を利用した屋内テニスの提案を予定しています。

続いて2点目、北野球場の改修工事ということで、実際には鷹巣中学校の野球場として現在使われています。6月27日の入札会で、秋田機械建設株式会社と契約が済んでいます。工期が8月31日までということで設定しています。工期に関しては鷹巣中学校と協議済みであります。工事の内容に関しては、土が細粒化されて小量の降雨でも泥状になるため場外への流出が多く、芝生との段差が大きくて危険性を伴っている。内野の土の入替えを中心とした整備を行います。あとはバックネットもかなり老朽化していますので、支柱を含めたバックネットの取替え、それと現在観客席が4基ありますが、こちらも建設当時のままですので、2基は撤去し、2基に関しては補修してそのまま使うということを計画しています。

続いて3つ目、チャレンジデー2016であります。5月25日に実施させていただきました。結果としては昨年より1,209人減った18,972名の参加ということで、55.6%でした。目標としていた2年連続の金メダルを獲得することができました。対戦相手の島根県雲南市は55.4%、鹿児島県南さつま市は68.3%ということで、勝敗で言うと1勝1敗ということです。お互いに敬意を表しまして5月26日からの1週間、3市それぞれにおいて対戦相手の市旗を掲揚しております。今後日常生活に運動を取り入れ、心と体の健康を維持し、スポーツによる地域形成を図り、市を元気にするため継続していきたいと考えております。自治会、町内会、事業所及び各種団体の皆様のご理解とご協力を今後もお願いして行こうと考えております。なお、今回初めて行いました特産品の交換ということで、北秋田市からはバター餅、北鷹高校の比内地鶏ししとうのプレミアムカレーを含む7種類64品目をそれぞれ両市に送っております。南さつま市からは、加世田かぼちゃは始めとした45品、雲南市からは、卵かけ専用醤油を始めとした70品をいただき、6月6日に抽選を行い115品の引き替えを行っております。

4番の100キロチャレンジマラソンです。大会実行委員会を事務局と情報共有し、住民参加を求めていきながら、動画やSNSを活用した情報発信をする。また、職員ランナーが増えていることから、頭に付ける小さなビデオを使ってユーチューブなどの中継等も検討していきたい

	<p>と考えております。定員は例年と同じ1,700名ということで、実は本日が最終締め切り日ということになっております。11時現在確認したところ、まだ定員には達していないようだということでした。盛んに今集計ということです。</p> <p>最後に5番のスポーツ合宿誘致についてです。陸上競技場の大規模改修を昨年度行っております。大会の誘致を促進したいところですが、宿泊施設の不足により厳しい状況にあります。地域創世を踏まえた活用やPRを行っていきたくと考えております。今年度の合宿に関しては、8月6日から11日まで、立正大学の剣道部の和田監督が鷹巣出身でありまして、3年連続となりますが合川体育館と鷹巣体育館で合同合宿を行うということになっております。学生数は30名程で、後は市内の中学校、高校、一般、指導者の方々合わせて80名から100名ほど参加して行うということのようです。あと東京都北区に本社を置くコモディイイダというスーパーがありますが、十和田八幡平駅伝競走大会、普通に十八駅伝と言っていますが、8月7日に毎年行われていますが、昨年北秋田市の方に事前合宿をされていたと。場所的にも気候的にも非常にやり易いということで、今年どうでしょうかと確認したところ、時期が早かったこともありますが、駅伝には積極的に出ますが、十八駅伝はできるかどうかまだ返事はできないということでした。十八駅伝の締め切り日が7月13日ということですので、まだ2週間ほどありますので、その後はっきりするのではないかなど。参加するようであればまたうちの方をご利用願えないでしょうかと、いうことはケアして行きたいと頑張っております。</p> <p>スポーツ振興課からは以上です。</p>
津谷市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>スポーツ振興課に関して、ご質問、ご意見いただきたいと思っております。</p>
吉田委員	<p>チャレンジデーについてですが、建設会社のようなところにも強めにお願いしたりしているのでしょうか。</p>
水木スポーツ振興課長	<p>一応市内の事業所に関しては、ほぼ全てをそういう所には直接秋田土建ですとか佐藤庫組、丸栄建設とか大きいところには直接足を運んでお願いしています。</p>
吉田委員	<p>実際に挙がってきていますか。</p>

<p>水木スポーツ振興課長</p>	<p>現場では必ず朝礼をして、必ずラジオ体操をやるので、是非そういうところから挙げてもらえるともっと増えるかな。</p>
	<p>规则的にダブルカウント出来ないので、当然北秋田市内の事業所に来て、市外から来られる方は北秋田市の方でカウント出来るのですが、北秋田市から他の方に行っている方に関してはカウント出来ないという現状がありますので、その辺何とかこちらの方にカウント出来るようお願いしているのですが、中々厳しいというのが現状です。</p>
<p>津谷市長</p>	<p>皆様のご協力に感謝して、また来年もよろしく願いいたします。</p> <p>それではスポーツ振興課も終わりました、続いて案件2の意見交換ですが、時間が限られておりますけど、特にテーマを限定しないで北秋田市の教育について日ごろ感じていることがあればご意見を伺いたいと思っておりますが、何かございませんか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、ご意見無いようですので、私の都合でこの後用件が入っておりまして、時間を限らせてしまいまして大変恐縮であります。意見交換の方はこれで出なかったということで、終わらせていただきまして、皆さんからの先程来、貴重なご意見をいただきまして、それぞれ担当する課の方でもそれを持ち帰りながら、私方も含めて事業執行に活かさせていただきますたいと思っております。本当にありがとうございました。</p> <p>あと進行の方をそちらにお返しします。</p>
<p>長崎次長</p>	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>最後に、その他でございますが、皆様からございますでしょうか。</p> <p>無いようありますので、以上を持ちまして、平成28年度第1回北秋田市総合教育会議を閉会したいと思います。</p> <p>本日も参加くださいました皆様、大変ご苦労さまでした。</p>